

おひい図書館

No. 73 発行
 代表 青木 初子
 青木 裕子
 松平 裕子
 830-60
 TEL 027-367-5384

郡上一揆

を 観て
 吉原 里絵

私はこの映画を、試写会を含めて2回観ました。その2回とも泣

かずに結末を迎えることができませんでした。この感動は皆さんが実際に観て味わって頂きたいと思

います。ここでは「郡上一揆」を「おひい図書館」で推薦してよかったです。突感した思いを書きたいと思

います。

映画を観終わってからの素朴な感想として、「なぜ、農民の要求が正当であると認められたのに厳罰を与えるのか？」というやむを得ない思いがありました。当時の時代背景

からすれば当然の結果なのでしよう。そう考えても、どうしても私には受け入れられず、農民達に感情移入している以外の何かがあると考えられました。

「何か」がわかるきっかけとなったのが、試写会の際の神山征二郎監督の言葉、「明治は西洋文明を受け入れるため江戸を否定する事から出発した。江戸に目隠しをしてしまった。農民についてもその一つ」でした。

この農民像は歴史を学ぶ学校でもつくられました。もつと私達に身近なテレビでの江戸を舞台とした時代劇にも表れています。

代表的な具体例として「水戸

音門 山遠山の金さん」などの、
 「民衆の味方」ドラマがあり、これらに慣れてしまうと、史実に忠実な「郡上一揆」の結末がしっくりこないのです。ドラマでは、農民や庶民の力では窮地をどうする事もできず、葵の印籠や桜ふぶきのイレスミなどの権威に助けられる事になっていて、正義のため、為政者によって、おとがめ無しが当たり前です。

これは、もっぱら、主流であるメディアの意図を確信する事は、できないにしても、神山監督の言う「目隠し」に通じると思います。

内容に戻って――後半で、主人公、定次郎が幼い日に父に勉強を教わっていて、居眠りをしてしまい父から「武士よりも学問を積んで農民のために働くのだ」と、いましめられる場面があります。

ここから、私が感じたのは、彼らがなぜ貴重な働き手を送り出し

てまで闘うのか、それは、食糧であり、財産であり、誇りである米を年貢として為政者に出す際、その量に不当にあやつらせまいよう、本當の生きる力を学びとっているのだという事です。

彼らの行動には、状況を正確に学びとる力があったからその行動——大勢での襲撃は村ごとに統制され、過去の例に照らし、自分の達の行動を裏付け、「お上(藩)」と「ご公儀(幕府)」の、それぞれとの関係を巧みに利用する——がありました。

私はこの映画から、目的を達成するには、必要な情報を収集し、分析し、行動につなげる庶民の力を受けとりました。

私達の時代は、情報にまみれていると言っているほどですが、果たして、どれだけ自分に必要なものを引き出せているのか不安です。狂牛病発症の牛発見、同時多発

テロ事件、その直後、マスコミや政府は、不安をあおるばかりの情報しか流さず、私達が判断し、行動するための情報は、乏しい状況でした。

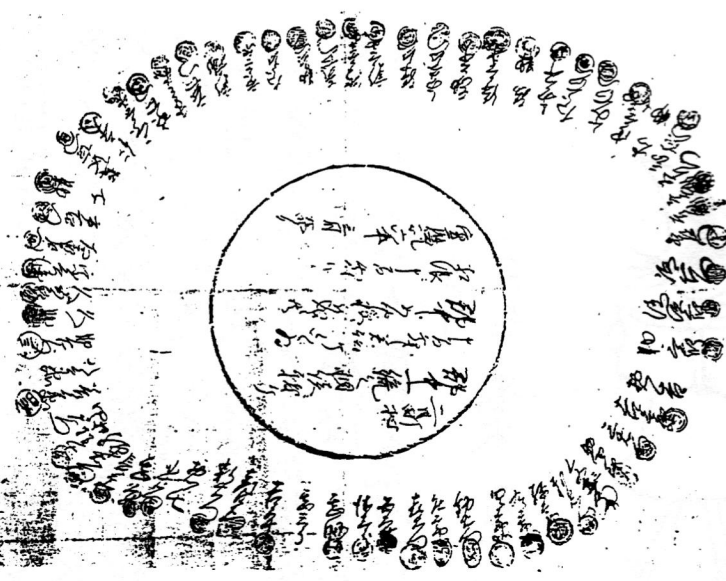
郡上の人々と私達は、同じ闘いはできませんが、自分の目で状況を判断し、行動するのは共通しています。

そして、私達には、日頃から広い様々な視野の情報を収集しているはずの図書館の役割が重要であり、必要なのです。

いってかこじつけくたくたありますが、『郡上一揆』は、私達市民の求める図書館づくりをする上での貴重な教材であると感じましたのです。



郡上郡二日町村傘連判状
(白鳥町二日町西森家所蔵)



※傘連判状

からぐれんはんじょう
 多人数が署名する場合、円形を描き、それを中心に放射状に署名をつらぬる方式。平等に一致団結する意志を示す。

9月28日(金) 16時から
市議会棟3階の特別委員会室で

第三回 松戸市

教育改革市民懇話会

が、開かれました。

会員有志で傍聴しました。

傍聴者は、計14名

会議内容については、当日のレ
ジメを、次頁に掲載します。

会議に先立ち、「本教育改革の目的」ならびに「本教育懇話会の目的と審議の視点」に関わる補定事項について、企画管理室から説明がありました。

◎「変化を創り出す改革」とは？

変化への対応は、三つある。

①何もせず現状に留まる。

②変化(問題)に、主体的に対応する。

③変化(課題)を創造する。

(主体的な対応)

変化(問題)に対応するだけでは、主体性のない後追いになってしまう危うさがある。③の主体的に変化(課題)を創り出すという積極的な視点からなされる創造的な営みを「改革」と考える。

◎「生涯学習の観点から教育改革の提言を得る」とは？

学校教育や社会教育などの固有の目的を大事にしなから、行き詰まった時など、これらの垣根を越えて鳥瞰する生涯学習という観点を持たたい。

◎懇話会の審議内容は議事録に残し、提言を事務局がまとめ、

次の懇話会に提示する。最終提言は事務局がまとめ、各委員の承認のもとに、本市教育改革の、あるべき姿として文章化する。

審議途中であつても、具体的な施策として実現可能なものは、施策を立案、実行する。

今回の懇話会を傍聴しての感想は、何かについて、つづこんだ議論をするというには程遠く、座談会の様相だという事、貴重な時間を割いて「プロジェクトX」(NHKのビデオ上映をする必然性は何か)のかという事でした。

次回は10月 日()の予定です。図書館の存在そのものが生涯学習であると考え、私達は、これからできる限り、傍聴を続けたいと思っております。

(報告 青木 和子)



第3回教育懇話会運営計画案

■ 教育懇話会の流れ

1. 開会の挨拶
2. 本プリントをもとに、懇話会の目的、方法、懇話会委員の役割等について再確認する。

『自立した市民社会の構築』をめざして！！

【本教育改革の目的】 “元気が出る学校教育と社会教育の創造”

▼本教育懇話会の目的と審議の視点

- (1) 生涯学習の観点から本市における学校教育並びに社会教育等の改革への提言を行う。
- (2) 変化(=問題)に対応するのではなく、変化(=課題)を自ら創り出す視点を基軸に教育改革への提言をする。
- (3) 教育懇話会委員は設定された各テーマをもとに自由闊達に審議し、教育改革への提言を教育長に行う。

3. 伏見工業高校の実践(プロジェクト“X”)から教育改革の視点を探る。

- (1) 目的：生涯学習の観点からプロジェクト“X”を視聴し、教育改革への視点(イメージ)を明らかにし、審議すべきテーマの方向を確認する。

(2) 審議の流れ(予定)：

- ① 当該ビデオを視聴する意図を事務局が説明し、委員の了解を得る。

【事務局説明要旨】 このビデオを一教師の実践として捉えるのではなく、教育改革の目的「元気が出る学校教育と社会教育の創造」に結びつく視点を見だし、審議テーマ設定の方向を確認するために視聴していただきたい。

- ② ビデオを視聴する。

【ビデオの概要】 このビデオは「プロジェクト“X”泣き虫先生」と題され、NHKが放映したものである。荒れた学校に着任した新任のラグビー部顧問の実践をまとめたものである。

- ③ 委員による感想・意見の交換

【協議の方法】 ビデオへの感想、教育改革への思いなど、それぞれ各委員の豊かな経験や識見に基づき、フランクにお話ししていただきながら教育改革へのイメージを探っていただきたい。

- ④ 第4回以降の審議テーマの方向を協議する。

感想・意見の交換を通し、審議テーマの方向を探りながら、審議テーマの方向を確認していただきたい。

- ⑤ 事務連絡並びに閉会の挨拶